

## 第72回日本PTA全国研究大会川崎大会報告

- 1 日時 令和6年8月23日(金)13時～8月24日(土)12時40分
- 2 場所 川崎市とどろきアリーナ
- 3 参加者 9名
- 4 内容

8月23日(金)

- (1) 特別第1 全国のPTAの縁を生かし力強く進める教育環境改善への提言 ～PTAの真の役割とは、ウェルビーイングな社会教育の促進～

○太田敬介氏(日本PTA全国協議会会長) PTAの歴史、個人の幸せ

○内田由紀子氏(京都大学教授 人と社会の未来研究院院長)

ウェルビーイングとは、ただの幸せではなく、新しいコンセプトで教育現場全体のことを考える。今が楽しい→これからの将来に希望をもてる。→この町・学校をよくしていきたい。快樂よりは「生きがい」国によっても地域によっても違う

1980年代に幸福な個人の研究がされた。幸福な人物とは、二つのタイプの幸福が報告された。獲得系＝自分で道を開拓。自己実現。これまでも私は望んだものを手に入れてきた。協同系＝他者との調和。自然や地域との共生。大切な人を幸せにできているか。これからは、場作り・信頼関係の重要性。

全体基調講演 誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて ～全ての子供たちに「生まれてくれてありがとうを届けよう!」～

○西野博之氏(フリースペースたまりば理事長 前川崎市子ども夢パーク所長)

子どもの権利条約 子どもは生まれながらにして人間である。川崎市子どもの権利条約の策定。

子ども夢パーク NHKドキュメント72時間で放映 見たい番組1位になった。「ゆめパのじかん」生きづらさを抱える子どもたち。いじめのピークは小学校2年生。子どもの自死が増えている。大人の「不安」が子どもの「自信」を奪う。「ちゃんと」「普通」という言葉を子どもに掛けていませんか。「完璧」を求める親になっていませんか。

AIが人間の知能を超える「2030年問題」「2045年問題」。これからの子どもに求められる力って何だ。「非認知能力」を高めることだ。プレーパークでは「けがと弁当、自分持ち」と言っている。安心して失敗できる環境作り。「学校に行かない子どもが見ている世界」(西野氏著書)に詳しく書いている。

これだけ時代が大きく変化しているのに、学校システムだけなぜ変わらないのか。医療モデル(ここを直す)から社会モデル(人間に社会の仕組みを合わせる)に変えていく。子どもたちの好奇心の芽を摘まない。「好きっちゅう才能がある」(NHKらんまん)幸せになるために学ぶ。「子どもの力を信じる」「だいじょうぶの種を蒔こう」「きっとだいじょうぶ」という魔法の言葉を掛ける。親は、「クウ・ネル・ダス」に気を配る。

- (2) 特別第2 大人が変われば子供も変わる「ウェルビーイングの社会実装～学び保障の政策を社会に根付かせることの大切さ～」

○土屋美樹氏(文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導第一係長)

誰一人取り残さない。小中学校における不登校の状況。COCOLOプラン。児童生徒一人一人に応じた多様な学びの考え方。校内教育支援センター・オンライン支

援・アウトリーチ支援。

○吉田田タカシ氏（「トーキョーコーヒー」代表）

バンド（ドーベルマン）やアーティストなどをやってきた。トーキョーコーヒーの取組（登校拒否のアナグラム。不登校の子供たちは問題児でも落ちこぼれでもない。「問題は子どもの不登校ではなく、大人の無理解」という視点から教育を考え、学び、子育てや教育、ひいては本当に豊かな社会について大人が考え、対話を生むムーブメント）。400カ所の大人の遊び場。大人が楽しいでいる空間こそが子供にとって最高の居場所。子供は何をしてもいい。何も押しつけられず安心できる場所で自信と意欲を高めていく。教育は邪魔をしないこと。血はつながっていても人生はつながっていない。マイノリティはネガティブではない。子供を均質化する教育に未来はない。

セッション1 多様性を認め合う心豊かな社会を目指して ～違いに気付きワクワクする人間関係が活動の力に！～

※ ウェルビーイングや教育のあり方について、講話をもとに少人数のグループになり、話し合いを行った。

8月24日（土）

※ 関東ブロック大会に参加

(3) セッション2 子供たちと一緒に自己肯定感を高め合う家庭教育の大切さ ～子供たちへの報酬は「ほめること」。もっと親力を発揮しよう！～

○親野智可等氏（教育評論家）

質問1 犬派か猫派か？どちらでもないか？ →生まれつき。（研究結果より）

質問2 朝型か夜型か？どちらでもないか？ →生まれつき。（研究結果より）

質問3 整理整頓ができるできない？ →生まれつき。（研究結果はないが）

「なぜできない。」と責めることは、自己肯定感をつぶす。

「鉄は熱いうちに打て」という言葉は、世界中にあるが、子供のうちに直さなければという考えは間違い。子供は、納得していない。子供は、今を生きているから。大人になれば直すことができる。直すモチベーションがある。直さないと困ることが分かる。

親は叱らない工夫をすること。親子関係と自己肯定感が大事である。言葉掛けが大事。相手をほめる。その方法として①部分をほめる。②先にほめる。③無条件にほめる。ほめる取組として写真でほめることをしている。（ほめ写）家族写真やがんばっている写真、いつもの生活の写真を飾る、一緒に作る。

○クロラン悦子氏（川崎市立南加瀬小PTA会長）

ほめ写の実践発表。子供と一緒に作る。まずは子供にやらせる。口を出しすぎない。

(4) セッション3 地域や社会に広げるウェルビーイング！住み続けたいまちへ ～全国大会ならではの！各ブロック大会等の活動事例から共に学ぼう～

○事例1 川崎市 「PTA'sキッチン」 料理のメニューを募集し、地域の店で提供してもらう取組。（地域・社会とのつながり）

○事例2 静岡市 「親子模型フェス」 地場産業であるプラモデルのフェスを行った。（行政や地域の企業とのつながり）

○事例3 岐阜県 「岐阜県PTAフォーラム in せき・みの・ぐじょう」研究大会

のアップデート。マルシェ形式。」(前例踏襲の打破)

- ・ やってる人が楽しい。知り合いから声を掛けて始める。リーダーの熱い思い。大人たちがやりたいと思ったことをやっていい。PTAが政治に食い込んでいく。
- (5) 記念講演 ウェルビーイングを社会に広げることの大切さ ~学びを振り返り、今こそ一歩を踏み出す決意の瞬間を楽しもう!~

○前野マドカ氏 (EVO L株式会社代表取締役CEO)

私たちが目指すウェルビーイングの世界とは? (自分があるがまま。体、心、地域社会) 自分は20年前にPTAに関わった。PTAの時間を笑いあえるような時間にしようと考えた。幸せはうつる。以前アンケートをしたことがあり、先生が幸せ・いい状態のクラスは幸せな子が多かった。8年間のPTA活動のウェルビーイングの実践と変化。最後のPTA会長の時に3.11があった。すぐにPTAとしての活動を行った。自分の状態をいい状態にしておくことの大切さを感じた。

PTA活動で気をつけたこと。①自分からの声掛け。②笑顔を忘れずに。③いつもワクワク。④よい点に目を向ける。⑤伸びしろを信じる。⑥何のためにするか。役員の特技や特徴を聞いておく。1%の改善点の反省ではなく、美点凝視。

ウェルビーイングを作る栄養素。体の栄養。心の栄養 (言葉、声掛け、ありがとう、助かった、優しい言葉、言葉をかけ続ける。)

幸せなPTA活動にするために、①今日の目的は?②どんな場にしたいか。③みんなが楽しんで参加できているか。④みんなの力を借りる。⑤俯瞰して見ること&バランス。

幸せは人それぞれ。「君だけの幸せって何だろう?」自分ウェルビーイングを考えよう。

幸せの因子 ①やってみよう (自己実現と成長) ②ありがとう (つながりと感謝) ④ありのままに (独立と自分らしさ) ⑤なんとかなる (前向きと楽観)

夢や目標を持って多様な人とのつながりを大切に、前向きに自分らしく生きる人が幸せ。

## 5 大会の特徴

- (1) スマートな学び 参加者全員が1会場に集結して1つのカリキュラムを学ぶ。
- (2) アクティブ・ラーニング 聞いて終わりではない。IT活用による意見交換やワークによって自分のアイデアを生み出そう。
- (3) 縁を感じ、縁を生かす 全国から集まるたくさんの仲間と学舎体験を共有するだけでなく、交流を通して縁をつむごう。
- (4) ウェルビーイングへの第一歩 ウェルビーイングを学ぶだけでなく、自分の生活に落とし込むアクションプランを各自でつくろう。

## 6 まとめ

- 1会場に集結し、全日程を参加者全員で共有することで、一体感があつた。また、移動の煩雑さが少なかったように思う。
- 講話やセッション中で、近くの方と4人グループを作り、自分の考えや感想を語り合い、個人宣言をまとめることにより、主体的な参加を促していた。
- テーマがウェルビーイングで自分の生き方やPTA活動への取り組み方を見直すことができたように思う。

(文責: 大澤)